

# 大東文化歴史資料館だより

第10号 2011. 5. 31

## 百年史編纂に向けて

大東文化歴史資料館長 古川 陽二



本学園は、2023（平成35）年に創立百周年を迎えます。大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）では、2007（平成19）年から、百年史編纂に向けた準備作業として、展示企画及び大東文化学院卒業生・関係者からの聴取調査等を進めるとともに、2009（平成21）年には、運営委員会レベルにおいて、百年史編纂の意義、編纂体制の提案及び専任スタッフ配置の必要性等を取りまとめました。そして、2010（平成22）年7月には、理事会において、「百年史編纂委員会」の設置が承認されました。

運営委員会は、百年史編纂の意義として、①大学の個性の確認、②アカウンタビリティの履践、③大学評価における大学沿革史の項目化、④情報公開法への対応、⑤自校史教育への活用を挙げています。また、本学にとっての固有の意義として、本学創設時の指導者たちが日本近代史の中で演じた役割を（批判的に）解明することを通して、建学の精神を再確認することが社会に対する責務であるとしています。そのためには、五十年史、七十年史の成果よりもむしろ、問題点を厳密に総括していくことが求められることとなります。

他大学では、百年史編纂までに15年程度の時間を要したとされています。これらのことを踏まえるならば、今年度は、百年史編纂に向けた具体的な計画策定と体制整備に取りかかることが急務といわなければなりません。ご協力、ご支援のほど、どうかよろしくお願い致します。

なお、百年史というと、膨大で堅苦しいものとなることは避けられません。当然のことではありますが、それとは別に、学生や教職員、OB等にとって、本学の百年と現状が分かり易く把握できる『小史』があってもいいのではないのでしょうか。「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく」という井上ひさしの名言のひとつを本学において実践するために…。

## 大東アーカイブス 第11回 企画展

## 受贈資料展

## —資料で見る大東文化学園史—

展示期間：平成23年4月18日(月)～平成23年9月30日(金)

(開室時間 毎週月～金曜日 9:00～17:00)

展示場所：大東文化歴史資料館 展示室(板橋校舎2号館1階)



大東文化歴史資料館は、2006(平成18)年4月の開設から6年目を迎えました。この間、同窓生や退職者を含む教職員、また創設関係者のご家族の方々やその研究をされているの方々など、多方面に及ぶ関係各位からのご厚意で、多くの貴重な資料を寄贈していただきました。大東文化学院創設以降88年間の歴史を伝える多様な寄贈資料は、これまでに五百点以上に及んでいます。それらの資料は大切に保管するとともに、これまでに開催した企画展のテーマに沿って一部ずつ紹介してまいりましたが、今回は5周年ということもあり、受贈資料展を開催してより多くの寄贈資料をご覧いただくこととなりました。

なお、展示室の構造やスペース、資料の形態等の関係上、残念ながらこれまでの受贈品すべてを一室に会して展示公開することは叶わず、一部ずつの公開となりますことをご了承ください。資料は順次入れ替えを行いながら公開していく予定です。

大東文化歴史資料館(大東アーカイブス)は、「学園及び大学を始めとする設置校の歴史に関する調査及び研究並びに校史に係る資料の収集、整理、保存及び公開を行い、もって学園及び設置校の発展に資することを目的」としています。

これからも皆様のご支援ご協力を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

#### ◆ 受贈品について

大東文化歴史資料館は開館以来、多くの方々から学園関係資料を寄贈していただけてきました。

資料の種類は様々で、卒業証書をはじめとした各種資格証明書類、写真やアルバム、ビデオテープやCD、学校歌などのレコード、学生服や学帽、学校章(襟章)、前身校にあたる大東文化学院の学生たちが編纂した貴重な『大漢和辞典』の初版本など、多岐にわたります。そのほか漢籍や書画の掛軸などの寄贈資料が多いことから、「大東文化らしさ」をうかがうことができます。

また、大東文化学院創設者たちの親族の方々とも交流させていただき、これまでに多くの貴重な資料を提供していただきました。大東文化学院の創設に携わった人々は近現代日本の政治史や文化史上の重要人物も多く、受贈品には各方面における研究資料としても貴重な資料が含まれています。

いずれの寄贈資料も寄贈者の方々から大切に保管されてきたものであり、思い出深い貴重な品々ばかりです。

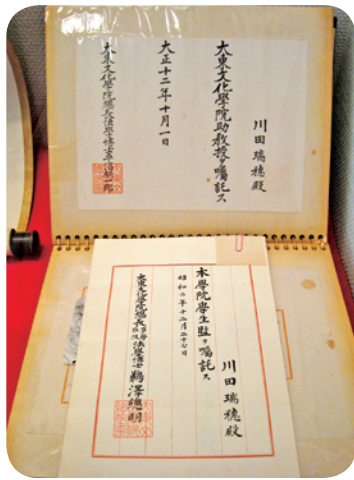
一方、大東文化学園内に保管されていたものも少しずつ歴史資料館へ移管されています。各部署で保管してきた過去の事務文書類や刊行物をはじめ、教職員個人が所有していたものも寄贈いただきました。そのほか、付設校・設置校の資料も移管されてきており、2007年3月に閉科となった大東医学技術専門学校臨床検査科で何十年間も使われていた器具備品教材類など、大東文化の歴史を語る大切な資料として保管しています。

(大東文化歴史資料館 浅沼薫奈)

## ◆ 展示品から

大東文化学院創設時より助教授として教育に尽力した川田瑞穂（雪山）は、昭和初期を代表する漢学者であり、終戦時「終戦の詔書」を起草したことでよく知られています。今回の企画展では、学院創設にあたって助教授に就任した際の委嘱状をはじめ公開しました。戦火で戦前の学内公文書は焼けてしまいほとんど残されていない中、大東文化学院の貴重な資料となっています。

また、同窓生からはアルバムや写真類をご寄贈いただく機会が増えてきています。今回の企画展では、その中で最も古い時代のものである昭和16年度の卒業アルバムを展示しています。1枚ずつの「卒業写真」や軍事訓練の様子などは昭和初期のものが残されていますが、おそらくいわゆる「卒業アルバム」の形態で作成されるようになった初期の頃のものと考えられます。そのほかにも、これまでに同窓生の皆様からご寄贈いただいた写真類をはじめとして、在学時の思い出の品々や、戦時下で学徒出陣の際に仲間たちから送られた国旗寄書などを紹介しています。



### <資料寄贈ご協力のおお願い>

大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）では、学園に関わる資料を広く収集しています。教科書・講義ノートのほか、写真・映像、機関紙・新聞など、ご提供いただけるものや情報がありましたら、お気軽にご連絡ください。ご協力を宜しくお願いいたします。

### 平沼騏一郎 扁額

絹本に楷書で「敬立内直」と墨書する扁額（架蔵）は、大東文化学院初代総長（大正13年1月～同14年1月 1924～1925）、財団法人大東文化協会第3代会頭で、昭和14年（1939）には第35代内閣総理大臣に就任した平沼騏一郎の揮毫。この四字句の出典は『易経』坤卦文言伝に、「君子敬以直内、義以方外。敬義立而徳不孤。（君子は敬以て内を直くし、義以て外を方にす。敬義立てば徳孤ならず。）」とある文言を換骨奪胎して、平沼独自の四字句に仕立てたものと思される。「敬立内直」の趣意は、邪心がなく有徳にして均整のとれた精神のあり方を言わんとするものであろう。平沼の好んだ文言であったようで諸所に同様の揮毫が存する。

扁額右上の陰刻引首印は「不忘敬」。落款「機外騏書」の「機外」は平沼の号、「騏」は名前の騏一郎による。その左側に陰刻で「平沼騏印」と陽刻「機外」の印章を捺す。

なお、当館『大東文化歴史資料館だより』第6号（2009年5月31日発行）には、「敬立内直」の四字句を五字句で「敬立而内直」と認めた本学中国学科中林史朗教授所蔵の同じく平沼自筆掛幅が紹介されているので併せて参照されたい。

（大東文化大学歴史資料館運営委員・日本文学科准教授 浜口俊裕）

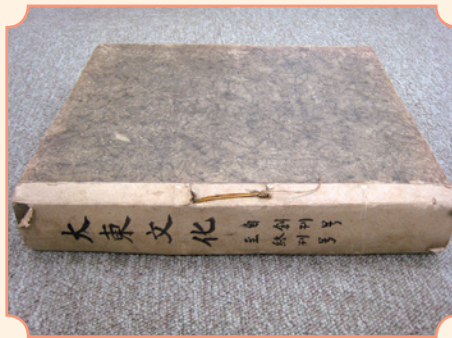


\* 所蔵資料紹介 \*

## 雑誌『大東文化』

雑誌『大東文化』については、2006年度に行った第2回企画展でも取り上げ紹介しています。実は、『大東文化』という雑誌は一つではありません。過去に同名で何種類も発刊され、大正期大東文化学院創設時から現在に至るまで、様々な形態と目的をもって刊行された雑誌にその名前が冠されてきました。あるときは大東文化の学生たちの自主刊行物として、あるときは教員を中心とした学者たちの学問・研究発表とその蓄積のため、また学内刊行物としても『大東文化』という名称が用いられてきました。そこに常に共通していたのは、各時代の中で「大東文化」に関する多様な報告の場となってきたということです。

今回紹介する『月刊 大東文化』は、昭和9年～昭和16年頃にかけて刊行されていたもので、数号の欠けはあるものの、ほとんど全号がそろった状態で1冊に綴じられて保管されていたものです。創刊当時は漢学の研究論文が内容の中心となっていたのですが、次第に政治思想的な発言や大学改革論争へと内容を変化させていきました。戦前から戦時体制下にかけての激動の時代において、大東文化学院がどのような変化を見せたのか、その一側面を知る大切な資料です。



### 【大東アーカイブス活動記録】(2010年10月～2011年3月)

- |   |   |
|---|---|
| 10. 6 全国大学史資料協議会全国総会・研究会参加<br>(於：熊本大学、～8日)      | 12. 13 年史部会会議                                     |
| 10. 29 次回企画展のための展示室入替 (～30日)                    | 12. 16 運営委員会会議                                    |
| 11. 1 第10回企画展(協力：書道研究所)<br>「大東の歴史を彩る 書の巨匠たち」公開  | 12. 22 ニューズレター「大東文化歴史資料館だより」vol.9 (11月30日号) 配布・発送 |
| 11. 11 常翔学園より自校史教育について調査のため来館                   | 1. 15 第10回企画展展示品入替                                |
| 11. 15 展示部会臨時会議                                 | 1. 17 第10回企画展第2部公開                                |
| 11. 15 萩庭勇氏(元中国学科教授)より資料受贈                      | 1. 20 退職教職員資料寄贈依頼説明                               |
| 11. 20 大学史研究セミナー参加 (～21日)                       | 1. 27 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会・研究会参加<br>(於：国士館大学)       |
| 11. 27 日本教育史学会において本学創設史に関する研究報告                 | 1. 28 所蔵資料に関する問合対応                                |
| 11. 29 展示部会臨時会議                                 | 2. 2 年史部会会議                                       |
| 11. 30 「大木遠吉展」について問合せ対応                         | 2. 18 「大学名称」について問合せ対応                             |
| 12. 1 三康図書館所蔵資料調査                               | 2. 18 吉田篤志氏(中国学科准教授)より資料受贈                        |
| 12. 9 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会・研究会参加<br>(於：東京大学経済研究所) | 2. 24 展示部会会議、運営委員会会議                              |
|   | 3. 31 第10回企画展公開終了                                 |

大東文化歴史資料館だより

第10号

DAITO ARCHIVES NEWSLETTER Vol.10

発行：2011年5月31日

編集発行：大東文化歴史資料館

〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10

大東文化大学徳丸研究棟

TEL 03 (5399) 7646 / FAX 03 (5399) 7647

URL : <http://www.daito.ac.jp/information/about/archives/index.html>